

RPPC メールマガジン 第 793 号

リサイクルポート推進協議会（令和元年 10 月 2 日）

■事務局からのお知らせ

(1) 第 9 回酒田港国際資源循環フォーラムについて

《第 9 回酒田港国際資源循環フォーラム 開催概要》

日時 令和元年 10 月 25 日（金）

国際資源循環フォーラム 15 時 00 分～17 時 30 分

なお、フォーラム終了後、同会場にてレセプション

（17：30～19：00／参加費 4,000 円）も予定しておりますので、併せてご出席賜りますようお願いいたします。

会場 ホテルリッチ&ガーデン酒田

（酒田市若竹町 1-1-1 TEL 0234-26-1111）

参加費 無 料

主催 NPO 法人山形県リサイクルポート情報センター

共 催 酒田港リサイクルポート推進協議会

後 援 国土交通省／環境省／山形県／酒田市／鶴岡市／遊佐町／庄内町／三川町／リサイクルポート推進協議会／山形県港湾協会／酒田港湾振興会／酒田商工会議所

《連絡先》

NPO 法人山形県リサイクルポート情報センター 事務局 斎藤

TEL：0234-31-7117（直通） FAX：0234-43-6444

<スケジュール>

第 9 回酒田港国際資源循環フォーラム次第

1. 開会 （15：00）

2. 主催者挨拶 NPO 法人山形県リサイクルポート情報センター
理事長 富樫 邦男

3. 来賓あいさつ

酒田市長 丸山 至 氏 （予定）

国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所

所長 池田 武司 氏（予定）

山形県港湾事務所所長 安食 稔也 氏 （予定）

4. 講演

「一帯一路・米中摩擦が日本海交流に及ぼす影響」

NPO法人北東アジア輸送回廊ネットワーク 副会長

三橋 郁雄 氏

「酒田港風力発電事業者協議会の取組みの紹介」（仮）

酒田港風力発電事業者協議会 会長 加藤 聡 氏

5. 鼎 談

<パネラー>

NPO法人北東アジア輸送回廊ネットワーク 副会長

三橋 郁雄 氏

酒田港風力発電事業者協議会 会長 加藤 聡 氏

<司 会>

東北大学大学院国際文化研究科 国際文化研究専攻

国際環境資源政策論講座 教授 劉 庭秀 氏

テーマ「これからの酒田港を発展させるには」（仮題）

6. 閉会 （17：00）

7. レセプション （17：30～）

(2) 令和元年度「リサイクルポートセミナー」について【お申込受付中】

テーマ「廃プラスチックのリサイクル」

※お申込は添付の参加申込書にご記入いただき、メール・FAXにてご返信ください。

☆基調講演：「新しい局面を迎えた国際資源循環 ～廃プラ問題を中心に～」

東北大学大学院国際文化研究科

教授 劉 庭秀 先生

☆講 演Ⅰ：環境省行政報告（調整中）

☆講 演Ⅱ：「プラスチック類の資源循環利用の現状」

一般社団法人 プラスチック循環利用協会

総務広報部 広報学習支援部長 富田 斉 様

☆講 演Ⅲ：「Japan Recycled Intelligent PR0ducts ～小さな大企業を目指して～」

株式会社リプロ

代表取締役社長 岡田謙吾 様

【日 時】11月5日（火） 午後

【場 所】第一ホテル東京シーフォート 3階 ハーバーサーカス

【交流会】28階 トップ・オブ・ザ・ベイ 17:30～

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 第4回国際荷役セミナー開催、最先端の動向で意見交換

ICHCA Japan（上田寛会長）と（一社）港湾荷役機械システム協会（金澤寛会長）は9月18日、都内で第4回国際荷役セミナーを開催した。ICHCA本部からジョン・ベケットICHCA会長、並びにリチャード・ブラウICHCA技術顧問を招き、コンテナターミナルの自動化と労働関係、また世界最先端の港湾荷役動向などのテーマで講演してもらい、聴講者と活発に意見交換した。

我が国からは中本隆・国土交通省港湾局技術監理室長が港湾荷役に係わる政策について、また池町円・港湾荷役システム協会先端荷役技術研究所研究主幹が、先端荷役技術研究所が実施している調査研究の概要を紹介した。

セミナー開催にあたって上田会長は、「本セミナーはICHCA本部から講師をお招きし、世界の港湾荷役の最新動向を知るため隔年ごとに開催し、今回で第4回目となる。タイムリーな話題が提供されるものと大変期待している」と挨拶。

来賓として高田港湾局長が、「本日の国際セミナーでは、港湾労働者研修やコンテナターミナルの生産性向上など幅広いテーマについて情報提供されると聞いている。国交省港湾局では世界最高水準のAIターミナル実現に向けた取組みを推進している。そのためにはICHCAが保有する海外の技術情報や先端荷役技術研究所の技術が不可欠であり、本日お集まりの関係者の皆様と連携しその実現を図って参りたい」と挨拶した。

2. 広島技調がリサイクル材の活用技術促進、設計マニュアルの検討も

中国地方整備局広島港湾空港技術調査事務所は、リサイクル材を港湾構造物に活用するための技術検討業務を行う。管内で発生する浚渫土に製鋼スラグ混合したリサイクル材を潜堤等の港湾構造物に利活用するための検討を行うもので、数値解析によって安定性の検討や沈下量算定方式の検討、また潜堤設計法についても検討し、設計マニュアルの検討まで進めたい考え。管内では福山港で潜堤整備の計画などがあり、中国地方整備局では技術検討の成果がまとめられ、こうした事業に活かしていく考え。

中国地方整備局管内では港湾開発や維持浚渫等で、大量の浚渫土砂が発生するが、土砂処分場の確保が課題になっている。このため製鉄の過程で発生する製鋼スラグと浚渫土を混ぜた製鋼スラグ混合材をリサイクル材として、潜堤などに活用していく検討を行ってきている。

3. 浜田港福井地区の国際物流 T、水深 14m 岸壁概略設計

中国地方整備局境港湾・空港整備事務所は、浜田港福井地区に位置付けられているマイナス 14m 延長 280m の国際物流ターミナルの概略設計、並びに整備計画の検討を行う。

対象岸壁は一昨年に改訂になっている浜田港の港湾計画で、石炭などを取り扱うバルクバースとしての機能が期待されている。実現すれば隣接している既設のマイナス 12m 岸壁延長 240m と合わせ水深 12m～14m の総延長 520m の連続バースが整うことになり、大型クルーズ船等への受け入れも可能になる。

浜田港福井地区では、既設のマイナス 12m 岸壁で石炭や原木、コンテナなどを取り扱っているが輻輳している。このため一昨年に策定した新たな港湾計画では、福井埠頭 5 号岸壁として石炭取扱等を対象とする水深 14m 岸壁延長 280m を計画、既設の 3 号岸壁（水深 14m 岸壁延長 240m、暫定水深 12m で供用中）では原木やコンテナの取り扱いを中心としたふ頭として取扱貨物の棲み分けを行い、港湾物流の機能向上を図ることになっている。

浜田港福井地区 5 号ふ頭の国際物流ターミナルは事業化はされていないが、事前検討を行い、事業具体化にあたっての基礎資料等とする。

【港湾空港タイムス 9 月 23 日号、他より編集】



発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL：<http://www.rppc.jp/> E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp



■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。